

平成17年8月

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
何卒、ご高承賜りますようお願い申し上げます。

敬白

記

- 受託開始日 : 平成17年 8月15日 (月) ご依頼分より
- 新規実施項目 : 結核性髄膜炎 TB-PCR検査
- 受託要領 :

項目コード	項目名	検体量	容器	保存	実施料 (判断料)	所要日数	検査方法	基準値
2590	結核性髄膜炎 TB-PCR 検査	髄液 1.0mL	F2	凍結	未収載	6~10日	Nested PCR	(-)

- (1) 本検査法ではコンタミネーションの影響が大きくなりますので、検体の採取に当たっては、取り扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けてください。
- (2) M. bovis BCG の一部の亜株は検出できない可能性があります。
- (3) 判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と合わせて担当医師が総合的に判断してください。

◆ 検査の概略

結核性髄膜炎の診断には、髄液所見での糖およびクロールの低下、ADA の上昇が参考とされ、確定診断には髄液検体からの塗抹、培養による結核菌の証明が必須とされています。しかし、髄液所見は必ずしも典型的な所見を呈さない場合も多く、また、結核菌の培養には4~8週間を要し、その検出率も60%程度と低い事が、従来より問題とされています。短時間で高感度に結核菌を検出する検査法として近年 PCR 法が臨床応用されつつあります。しかし、感度や特異度の問題が指摘されており、陽性率は65~83%と一定していないのが現状です。

これに対し、PCR 法の感度と特異度を劇的に高める方法として Nested PCR 法が注目されています。これは1対のPCRプライマーの内側にもう1対のプライマーを設定し2ステップのPCRを行う方法です。

このたび弊社では、日本大学医学部先端医学講座受容体生物学部門 中山智祥助教授より本法の技術供与を受け、結核性髄膜炎の診断に有用な Nested PCR 法による結核菌 DNA の検出の受託を開始致します。